

タイトル	時代と向き合って(退職記念)
著者	大塚, 秀之
引用	北海学園大学人文論集, 45: 5-9
発行日	2010-03-31



大塚 秀之教授

時代と向き合って

大 塚 秀 之

人文学部5年間の研究生生活は瞬く間に過ぎ去った、という感が強い。これは、おそらく、ここ札幌での生活がいかに充実していたかの証なのであろう。「北海道では多くの友人・知人に恵まれ、礼文や知床など各地を訪れては自然を満喫し、ニセコや富良野ではスキーを楽しむなど、充実した生活を送ることができました」とは、今年年頭の私の挨拶の一節だが、単身赴任の5年間で恙無く送ることができたのは、人文学部の先生方や事務職員の皆さん、学生や院生諸君、それから、札幌に移って来てから知遇を得た多くの友人や知人のお陰であった。

この5年間はまた、世界史の上でもまれに見る激動の時代、文字通りの転換期の世界であった。アメリカ合衆国をどのように認識するかは、私たち日本の、そして世界の将来と分かち難く結びついている、との思いが強まるようになった20年ほど前から、私のアメリカ合衆国研究は次第に現代に集中するようになった。問題の重要性を意識すると、菲才を省みず、私にとっては真新しい問題に手を出すようになっていったが、こうした衝動はこの激動の時代に一層強まっていった。

アメリカ合衆国における金融恐慌に端を発した深刻な経済危機、それを背景に誕生したオバマ政権、わが国における長年にわたる自民党政権の崩壊、日米両国で進行する国民生活の急激な悪化などなどの現実を前に、私の研究もまた、アメリカで広がる貧困と格差、GMの破産に象徴されるアメリカ型企业社会の破綻、国内では産業の空洞化を引き起こしながら、ひたすらグローバリゼーションに走るウォルマート社とその否定的影響、そして、オバマ政権誕生の原動力となった生活破壊と有権者の怒り、などなどに向けられていった。

オバマ政権の誕生という途方もなく大きな事件は、わが国でも強い関心
を呼んだから、新聞や雑誌のほか、函館をはじめ道内の各地から今のアメ
リカについて話を聞きたいとの声がかかり、私もそうした機会を逃さず、
そして、講演会が終わった後の懇親会での談論をおおいに楽しんだ。そこ
から知人の輪がどんどん広がっていった。

こうして、北海学園大学人文学部の、そして札幌を中心とした北海道の
5年間の生活は、あっという間に過ぎ去ったのである。あらためて、皆さ
んありがとうございました。

略 歴

1940 年 3 月 3 日 群馬県前橋市に生まれる

学 歴

1964 年 3 月 一橋大学経済学部経済学科卒業

1967 年 3 月 一橋大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了

職 歴

1967 年 4 月 神戸市外国語大学助手

1969 年 4 月 神戸市外国語大学講師

1971 年 4 月 神戸市外国語大学助教授

1982 年 4 月 神戸市外国語大学教授

1998 年 4 月 学生部長兼務（2000 年 3 月まで）

2000 年 4 月 図書館長兼務（2003 年 3 月まで）

2005 年 4 月 北海学園大学人文学部教授

2005 年 4 月 神戸市外国語大学名誉教授

主な研究業績（北海学園大学人文学部就任以後）

I 著 書

『格差国家アメリカ』 2007 年 11 月 大月書店

II 論 文

1. 貧しいアメリカーハリケーン「カトリーナ」が明るみに出した貧困と人種— 「経済」124 号 新日本出版社 2006 年 1 月
2. アメリカ型企業社会の破綻—市場原理主義の行き着くところ— 「歴史地理教育」699 号 歴史教育者協議会 2006 年 5 月

3. ウォルマート―超過搾取と収奪の帝国― 「経済」141号 新日本出版社 2007年6月
4. ワーキングプア―のアメリカ：生活と闘い 「経済」151号 新日本出版社 2008年4月
5. 「アメリカの世紀」の終わり 富田虎男他編『アメリカの歴史を知るための62章』所収 明石書店 2009年3月
6. オバマの挑戦―人種を超えた共同と連帯を目指して― 「月刊東京」301号 東京自治問題研究所 2009年4月
7. GMの破産と労働者 上・下 「経済」167・168号 新日本出版社 2009年8・9月号

III 学会報告

1. 帝国アメリカの内側 シンポジウム「アメリカ帝国（主義）と労働民衆」日本アメリカ史学会第4回年次大会 東北大学 2007年9月22日
2. 監獄人口の増加とアメリカ社会（コメンテーター） アメリカ学会第43回年次大会 津田塾大学 2009年6月7日
3. GMの経営破綻と労働者の世界 アメリカ経済史学会2009年度大会 立教大学 2009年10月10日

IV 対談・鼎談

1. 鼎談 現代アメリカの実像に迫る 坂口明・萩原伸次郎・大塚秀之「前衛」802号 日本共産党中央委員会 2006年4月
2. 座談会 格差と貧困の拡大をどうみるか 大塚秀之・小越洋之助・唐鎌直義・友寄英隆 「経済」130号 新日本出版社 2006年7月
3. 座談会 どうすれば貧困を解決できるのか 安東朋美・大塚秀之・福原宏 「北海道民医連新聞」282号 2008年1月1日
4. 〈新春対談〉深刻な社会的格差と貧困の打開を求めて 児玉健次・大

V 論説・随想・その他

1. 芸術作品に映し出された時代精神 「北海学園大学大学案内2007」
2. 超大国アメリカの豊かさと貧しさ 「北海道民医連新聞」283・284・285号 2008年1月24日・2月28日・3月27日
3. エリック・シュローサー『ファストフードが世界を食いつくす』：私が薦めるこの1冊 「北海学園大学図書館だより」30巻1号 2008年1月1日
4. オバマ氏勝利の画期的意義：危機打開へ人種の壁こえ 「しんぶん赤旗」2008年11月25日 日本共産党中央委員会
5. 講演 不平等社会アメリカ 科学研究費研究成果報告書（基盤研究B）「米国連邦NCLB法下での公教育ガバナンスの変容に関する教育法政策学的研究」 2009年3月
6. 歴史の中の個人、あるいは、歴史における個人の役割について 「年報 新人文学」北海学園大学大学院文学研究科 2009年12月